

自己評価総括書

令和4年8月10日
尾道市立高西中学校

1 ミッション

「中学校区で取り組む『志プロジェクト』」の推進

2 ビジョン

高い志とふるさとに誇りを持ち「知りたい・学びたい・挑戦したい」があふれる学校

- 笑顔・感動・夢のある生徒（生徒）
- 安全で、安心して任せられる学校（学校）
- ふるさと学習、キャリア教育を推進する学校（地域）
- 教職員がやりがいを持って活動している学校（教職員）

3 重点課題における成果と課題

①授業改善のカリマネの推進→学力の向上

- つきたい力や、働かせたい見方・考え方などを明確にした指導案や逆向き単元構想図が作成できた。また、次回の授業研や、日頃の取組について、グループでしっかり交流ができた。
- 本質的な問いや学びのファシリテートについて、校内研修で確認することができた。
- 電子黒板等 ICT の知識や活用に教員間の差がある。また、思考ツールについて、各教員で日常的に活用しきれていない。

②特別活動（集団づくり）のカリマネの推進→自己実現力の向上

- 「なりたい自分」を決め可視化し、節目節目で立ち返り、その実現に向けて取組を進めることができた。さまざまなロールモデルと出会う中で、自分の生き方を考える「いきなび」を実施し、生徒が自立的に自己実現するきっかけづくりができた。
- 学期の始めと終わりには高西版キャリア・ログ「学びの地図」において、どのような力がつきたか資質・能力を視点に振り返りを行った。
- アンケートの数値だけでなく、自分たちの学級を本気でよりよくするために、生徒自身から自分たちの課題を発見し、改善していく営みを仕組んでいくことが必要である。

③働き方改革のカリマネの推進→チーム力の向上

- 年度始めの面談を通じて、「学校評価」と「業績評価（自己申告）書」のつながりを意識させ、学校経営の一翼を担う自覚を促した。
- 学校経営会議を通して、各分掌における実践において、主任・主事が自信をもってリーダーシップを発揮し、校長の方針を踏まえたブレない教育活動が協働して進められている。

4 今後の取組の方向、改善策等

- ①生徒の学習への意欲を高め、自ら学びを調整するために、ファシリテーターとして教員の指導・支援をより明確に、具体的に。また、これまでの授業実践を整理し、教職員一人一人が自身の授業の実態を分析し、新たな取り組みに挑戦できるようにする。
- ②アンケートの活用にとどまらず、生徒の声（本音）や生徒からでた課題をもとに学級をよりよくしていくための話し合い活動を仕組んでいく。そのために担任との事前の打ち合わせで確認したり、学級委員会で指導したりすることで生徒の自治的な話し合い活動を展開する。
- ③学校経営会議等を通して、学年部や分掌において、主任、主事のリーダーシップの下での、協働的なチーム作りを支援する。また、月に2回、金曜日を5時間授業とし、教職員の時間外勤務時間の縮減を図る。